

英語グループ 助教 Avanzi Maria Carlotta
研究テーマ：地方に遺る白鳳時代の小金銅仏に関する研究 研究の特徴 地方に遺る白鳳時代の小金銅仏については、これまで必ずしも十分な検討が行われてこなかった。それに対して、本研究の特徴は、地方に遺る小金銅仏の重要性に着目し、中央と地方という視点から白鳳時代の彫刻史をより立体的に把握しようと試みる点にある。
研究紹介： 白鳳時代（645-710）の小金銅仏については、中央で制作された作例に関する研究が中心であり、地方に遺る作例については未だ詳細な調査・研究が行われていない。しかしながら、現存作例の数が限られている白鳳時代の小金銅仏の全体像を理解するためには、地方に遺る作例の調査・研究が必要不可欠である。 私は、白鳳時代の彫刻史研究を進める中で、これまで十分に注目されてこなかった地方に遺る小金銅仏に着目することにより、中央と地方という視点から白鳳時代の小金銅仏の全体像を提示できると考えるに至った。さらに、地方に遺る作例の調査・研究を進展させることで、大陸の影響や工房の系統の問題についても、重層的な理解が可能になると考える。 本研究は、地方に遺る小金銅仏の基礎的調査・研究を進め、これまでの中央の作例に関する研究成果と統合することにより、中央と地方という視点から白鳳時代の彫刻史を立体的に把握することを目的とする。
研究業績（2018 年以降） ・査読付論文：2 件（国際会議プロシーディング 2） ・査読無論文：該当なし ・学会報告等：3 件（国内 2、国際会議 1）
その他 該当なし

